令　和　５　年　度　　久　屋　小　学　校　の　教　育

学校教育目標

心豊かで　かしこく　たくましい子どもの育成

学校教育重点目標

気　づき，考　え，みんなで創　り出　す

～子ども主体の学びの文化・くらしの文化の創造～

気づき

○「こうやればできそう。」　○「泣いている人がいる。」
○「やってみたい。」　○「あいさつが気になるな。」
○「なんか変だぞ。」　○「言葉づかいが悪いな。」
○「解決しなきゃ。」　○「全校，仲良くなりたいな。」
◎価値ある「気づき」から学習課題やめあてを醸成していく。

考え

○課題・めあてへのこだわりをもつ。
○自分の方法で思考する。
○対話につながる根拠をもって考える。
○考えたことを，相手を意識して言語化していく。
○くらしを創る方法を考える。
◎主体的な思考・判断・表現の場を創る。

めざす学校像

1　安心して学べる学校
2　信頼される学校
3　よさが発揮できる学校

めざす教職員像

1　協働できる教職員
2　信頼を築き，温かい人間関係を育む教職員
3　学び続ける教職員
　積極的な研修参加
4　自立した職員集団

みんなで創り出す

○友達と考えを交流し，多様な見方や考え方を得る。
○思考・判断・表現の深化
○学びやくらしに活きて働く知識・技能の習得
○学び方に幅をもたせる。
○合意形成を図りながら，解決策を模索し，実践につなげ，成果・成長を実感する。
◎生きる支えとなる学力・協働性・自治性を育成していく。

重点目標実現のために

1　学びの意味や価値を自覚できるしかけの工夫，育成すべき資質能力に向かう主体的な表現と思考，協働的な学びの工夫
（気づき　考え　みんなで創り出す授業　能力ベイスの授業）
2　系統の中で単元・題材をとらえ，育成すべき資質能力を明確にし，造形的な見方・考え方を働かせた造形的活動を柱とした図工科授業のあり方を協働的，具体的に導き出す。
3　人権教育を基底に据えた指導と評価の充実（一人一人の評価を大切にする。それを指導に活かす。【教師の原則】）
4　学習課題について情報収集→分類整理→まとめ・表現　の学習過程を大切にする。また，読書推進の啓発を工夫する。
5　特別支援のあり方を柔軟に弾力的に検討する（教育課程，関係機関・家庭との連携協働）
6　生徒指導と児童会のリンクにより，児童主体の自治的な活動を積み，児童主体のくらしの文化を創造する。
目標設定→実践→振り返り→成果・成長への実感→目標設定→実践　このサイクルの中でのくらし創りの確立をめざす。
7　授業のため，学級のために時間を生み出す業務改善と勤務環境整備
「教育の質の向上」→「職員の健康維持」「ワークライフバランスの適正化」の実現　　１２月に業務改善協議を実施

学校運営協議会をもとにした「学校と地域のつながり」

○年３回の学校運営協議会の中で，地域の思いや願いを確認し，経営に活かす（６・１２・３月）。
１２月は教職員との懇談会を実施し，授業や学級経営の現状について情報交換を行う。
地域とつながった活動（遠足・日本遺産学習・三瓶に親しむ　６月学校運営協議会の中で具体策協議）
○自信を高める学校・地域・家庭の役割の明確化と啓発（６月学校運営協議会の中で具体策協議）
○原則，全校活動の案内を委員に出す。（授業公開・学校行事・遠足）
○校内の困難な事案（児童の問題行動や不登校，教職員の不祥事　等）にかかわる連携した対応をしていく。
○３回目の学校運営協議会（３月実施）に向け，学校評価アンケートを委員にも回答していただく。次年度の学校経営についての協議も行う。

地域の願い
・　大屋が　久利が　好きな子
・　自信をもって　生きる子